

松島町長期総合計画策定に向けた全世帯意識調査結果の概要について

1. 調査の概要

本調査は、現在の町民の意向を把握し、長期総合計画の基本計画に係る諸施策にその意向を反映させ、町民と町が一体となって計画を策定、推進していくことを目的に実施しました。

また、前回調査時の回収方法は郵送または役場の回収箱のみでしたが、今回は保健福祉センター等の4箇所に回収箱を追加しました。それによって、前回調査時より回収率が上昇したと考えられます。

表1：調査概要（アンケート回収状況）

回収状況	今回			前回調査時(平成26年度)		
	発送数:世帯	回収数:票	回収率(回収数/発送数)	発送数:世帯	回収数:票	回収率(回収数/発送数)
全体	5,327	1,343	25.2%	5,297	1,276	24.1%
松島	813	174	21.4%	809	146	18.0%
高城	1,273	325	25.5%	1,327	274	20.6%
本郷	764	158	20.7%	748	118	15.8%
磯崎	1,260	333	26.4%	1,169	295	25.2%
手櫛	214	67	31.3%	218	56	25.7%
北小泉	69	17	24.6%	70	9	12.9%
下竹谷	86	20	23.3%	87	11	12.6%
上竹谷	97	25	25.8%	104	20	19.2%
幅谷	387	114	29.5%	384	89	23.2%
根廻	68	21	30.9%	70	18	25.7%
初原	230	61	26.5%	243	55	22.6%
桜渡戸	66	11	16.7%	68	10	14.7%
無回答・他	-	17	-	-	175	-

※グラフの()内は前回調査時との増減を示します。
 ※アンケート調査における「普通」は、「5段階評価の真ん中」であり、統計的に点数化した場合には中間値、平均値を示し、否定的指標である「標準以下」ではないことから、肯定的な回答として分析を行いました。

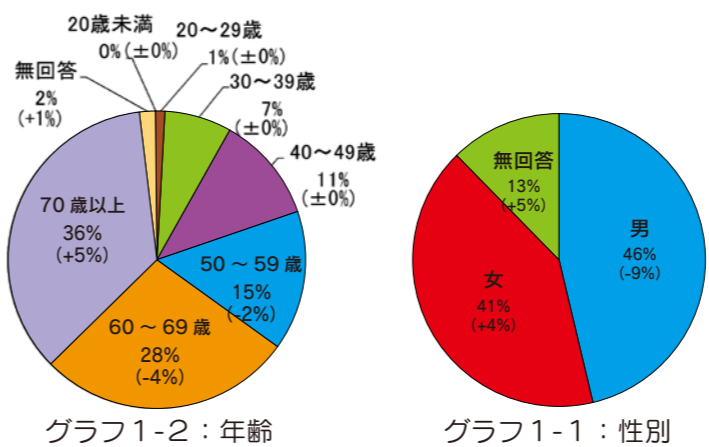
2. 調査結果の概要

(1) 回答者の属性

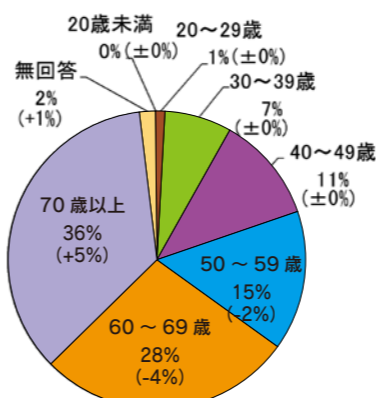
性別については、前回調査時に比べ男女比の割合が同数に近づきました。また、年齢構成については、前回調査時と同様、60歳以上が約6割を占める結果となりました。(グラフ1-1、1-2)

(2) 松島町への愛着度

「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」、「普通」とした人が約9割を占め、愛着を感じている人が多くなっています。(グラフ2)



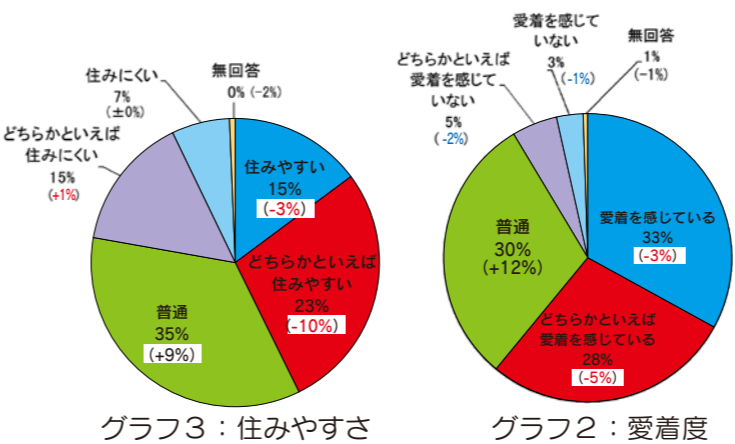
グラフ1-2：年齢



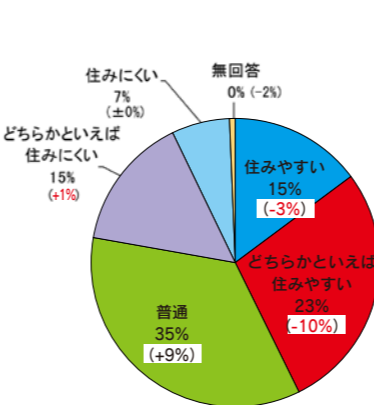
(3) 松島町の住みやすさの評価(重点戦略：定住)

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」、「普通」とした人が約7割を占め、住みにくいと感じている人に比べ住みやすいと感じている人の方が多いですが、前回調査時に比べると減少傾向にあります。(グラフ3)

「住みやすさ」に関しては、「50歳以上」、「松島、高城、本郷、磯崎」、「団体職員・団体役員、農林業」ほど住みやすさを感じている傾向が見られます。
 ↓若者や農村部の方、第二次・三次産業従事者などに、定住意向を高める取り組みを継続させることが求められています。



グラフ3：住みやすさ



(4) 子育て支援に関する評価(重点戦略：子育て)

「普通」とした人が約3割を占め、「充実していると感じる」と「充実していないと感じる」の割合はほぼ同程度となっています。(グラフ4)

「子育て支援」に関しては、「20代、40代」は充実していると感じている傾向が見られた一方で、「30代」は充実していると感じていない傾向が見られました。
 ↓子育て世代全体に向けた子育て支援に関する取り組みの充実化が求められています。

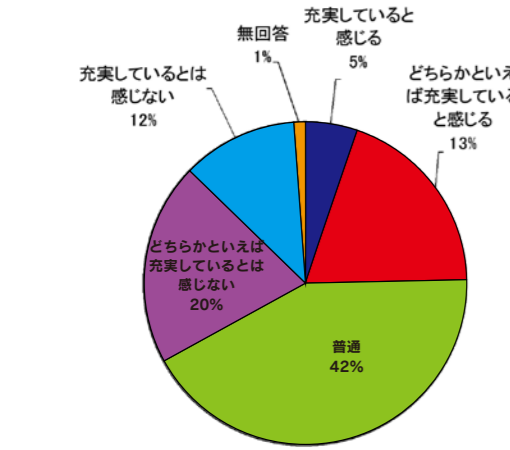
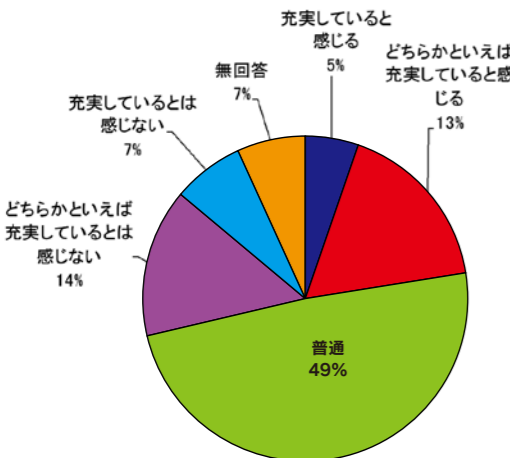
(5) 地域・観光交流に関する評価(重点戦略：交流)

「充実していると感じる」、「どちらかといえば充実していると感じる」、「普通」とした人が約3割を占め、充実していないと感じている人が多くなっています。(グラフ5)

「地域・観光交流」に関しては、「40歳以上」、「下竹谷、根廻」、「農林業以外の職業」ほど充実していないと感じている傾向が見られました。
 ↓幅広い世代や町全体を巻き込んだ交流機会の創出に関する取り組みが求められています。



▲総合計画審議会の様子

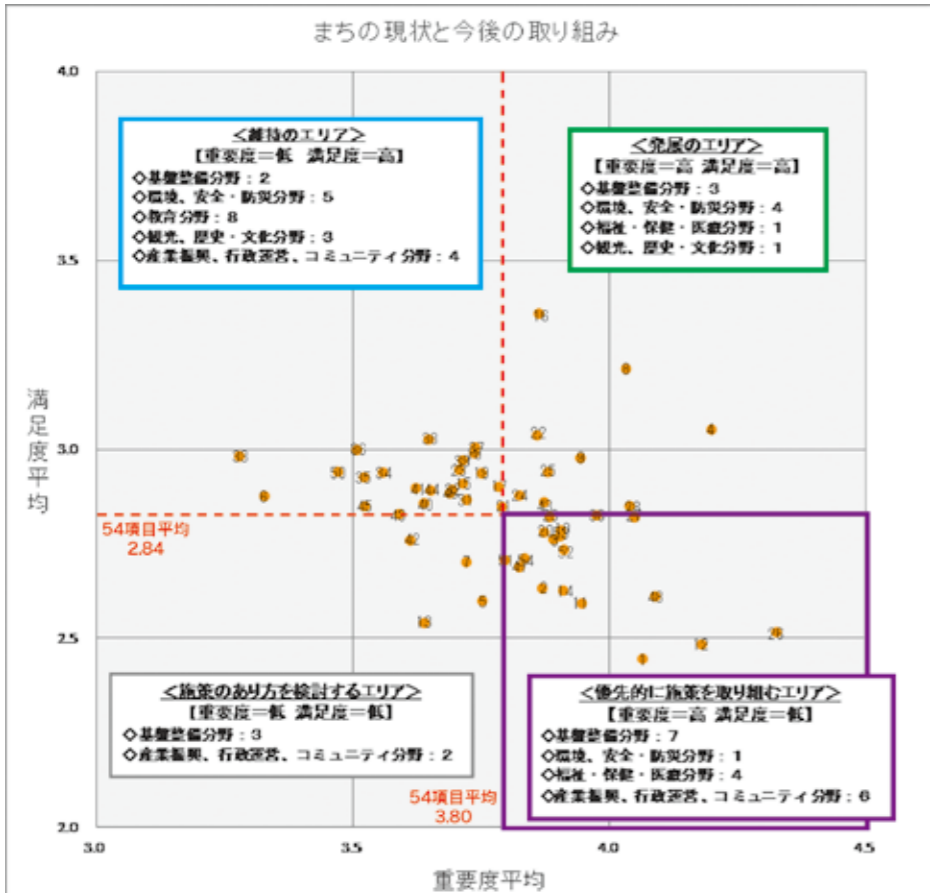


(6) 町の取り組みに関する重要度と満足度の評価

現行計画における各分野の取り組み(54項目)の重要度及び満足度の平均を基準とし、各分野の取り組みを4つのエリアに分類しました。特に、重要度が高く満足度が低いと評価された「優先性の高い取り組み」は、以下の取り組みが抽出されました。(グラフ6)

《優先性の高い取り組み》

- ・NO.1 住みよい居住環境とするための有効な土地利用
- ・NO.11 身近な生活道路の整備や管理(町道等)
- ・NO.12 松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備
- ・NO.26 医療機関の充実や緊急医療体制の強化
- ・NO.48 福祉、教育、産業振興など総合的な観点での定住促進策

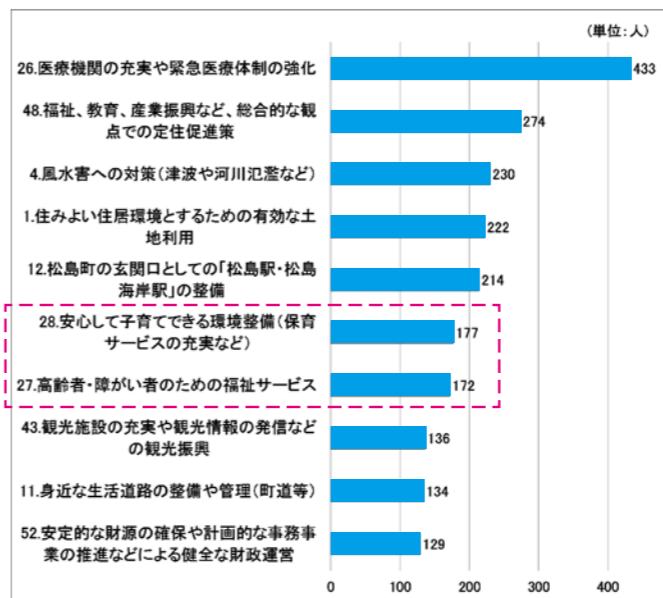


【7】特に重要と思う取り組み

分野別の取り組み（54項目）のうち、特に重要と思う取り組みとしては、グラフAに示す取り組みが多くなっています。（グラフA）

前項で示した「優先性の高い取り組み」が上位を占めている中において、「優先性の高い取り組み」に位置付けられていない「安心して子育てできる環境整備」や「高齢者・障がい者のための福祉サービス」についても重要な取り組みと感じている人が多い傾向が見られました。

↓福祉・保健・医療分野に関する取り組みの推進が強く求められています。



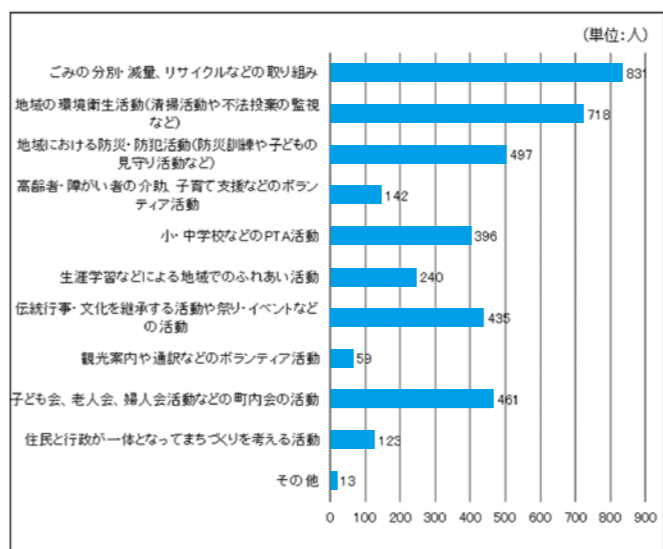
グラフ7：特に重要と思う取り組み（上位10項目）

【8】町民活動への参加

町民活動として、実際に参加したことがある取り組みは、「ごみの分別・減量、リサイクルなどの取り組み（831人）」、「地域の環境衛生活動（清掃活動や不法投棄の監視など）（718人）」、「地域における防災・防犯活動（防災訓練や子どもの見守り活動など）（497人）」が多くなっています。（グラフ8）

町民活動に参加している人については、「60歳以上」「松島、高城、本郷、磯崎」ほどより多くの取り組みに参加している傾向が見られます。

↓幅広い世代や、地域単位で一体となって取り組める町民活動が求められています。



グラフ8：参加したことがある町民活動の取り組み

【9】重点戦略に関する意見・要請

●定住

定住促進に向けた具体的な施策を明確にしてほしい。企業誘致等の若年層の定住促進に向けた取り組みを推進するべきである。

●交流
大型、小型問わず商業施設を増やしてほしい。住宅建築が可能となるエリアが増えるよう規制緩和してほしい。

●子育て
空き地及び空き家を有効活用してほしい。

●子育て
子どもが遊べる施設や公園を増やしてほしい。小児科等の医療施設を増やしてほしい。

●交流
夜間保育等、子育て世代への支援を充実させてほしい。

●交流

国内外に観光情報を積極的に発信してほしい。町外より移住した場合、以前から町内に在住している住民とのコミュニケーションがとりにくい。住民の誰もが参加できる交流事業を推進してほしい。



▲まちづくり検討庁内委員会の様子

【10】まちづくりに関する意見・要請

【基盤整備分野】意見数：372

●土地利用

日用品を賣える商業施設（スーパー）が町内に少ない。

積極的に松島町へ企業誘致をして、町の活性化をしてほしい。

観光に力を入れるのはいいが、住民の暮らしやすさにも力を入れてほしい。

●道路

道路脇や歩道の雑草が至るところで目立つ。適切な維持管理をしてほしい。

側溝がない道にも側溝が欲しい。蓋がない箇所もあり危険である。

●公共交通

高齢者の利用手段として、町民バスの運行方法を見直してほしい。

松島駅、松島海岸駅のバリアフリー化（エレベーター）に取り組んでほしい。

【環境、安全・防災分野】意見数：98

●自然環境保全

観光の町なので、きれいな町として観光客を受け入れたい。

不法投棄をさせない施策に取り組んでほしい。周辺の草刈りやごみ拾いなどは、身の回りの気づいた人が実践できるような町になってほしい。

●消防・防災

大雨による浸水被害等の自然災害対策をより強化するべきではないか。

避難施設自体の整備は進んでいるが、備品が充実していない感じがする。

【福祉・保健・医療分野】意見数：152

●保健・医療

眼科や耳鼻科が町内にほしい。歯科ばかりが増えている。

救急や夜間における医療体制を充実させてほしい。町内に医療施設が少なく町外に行かざるを得ない。

高齢者に優しい医療体制をとってほしい。

●高齢者福祉・介護予防

一人暮らしの高齢者に対して、体調確認等の積極的な声掛けをしてほしい。

高齢者が参加できる運動教室等のイベントを増やしてほしい。併せて、送迎も充実してほしい。

●児童福祉

子どもが遊べる施設を充実させてほしい。

●教育分野】意見数：57

●学校教育

学力向上に向けて、英語やインターネットを用いた授業を充実させるべきではないか。

幼稚園や学校などの教育施設を整備してほしい。

●生涯学習

図書室の本の種類を増やしてほしい。

●国際観光

水族館がなくなってから観光客が減っている気がする。

リピーターを増やす取り組みが何かできないか。新しい観光スポットの開発をするべき。

●交流事業

子どもと高齢者など、年代で区別することなく交流できる場がほしい。



▲まちづくり検討委員会（ワークショップ）の様子

●産業振興、行政運営、コミュニティ分野】意見数：115

●住民参加

地域コミュニティが弱体化しているので、より活性化が必要がある。

もっと若い世代の声を聞く機会があるべきではないか。

町の政策や取り組み状況など、もっと町民に分かる形で情報提供してほしい。

町の発展には町民や地域との協力が不可欠である。

●行財政

観光に特化せず、生活者目線のまちづくりを進めてほしい。

高齢化に伴い今後必要不可欠となる「福祉、医療」に対する予算配分を考えてほしい。